学校番号	3034

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「倫理」（東京書籍）						
副教材等	「最新 倫理資料集　テオーリア」（第一学習社）「倫理用語集」（山川出版社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「人間とは？」「私とは？」「生きるとは？」いう哲学的命題について、古代からの思想を概観し、現代的課題である「社会」と「私」との関係について考える科目である。
・現代社会に起こっているさまざまな問題について、みずから課題をみつけ、みずから考え、みずから主張できる力を養うことを授業の目的としたい。

２　学習の到達目標

・一人の人間として、社会の一員としていかに生きるのか、人間の在り方生き方について、先哲、あるいはいくつかの世界宗教の内容を偏見なく理解することを目標する。
・世界の諸思想・宗教が、現代社会に生きるわれわれの生き方にどのように結びついているか、古代に始まり今も残る思想の現代的意味を理解することを目標とする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	私はなぜ生きているのか？　他者のいる社会と私の関係は？等々、人間の生き方に関わる基本的問題について、思想史上の多くの思想家の考えを紹介し、生きる上での事柄に対する関心を高め，みずから考える力を養う。また現代社会に次々に生起する諸問題について考察し、さらにそれら諸問題に対し、自分はどう考えるかという主体的な姿勢を育む。	現代社会に生きる一人ひとが一市民として社会を構成していることを踏まえ、個人としての私、類としての人間、そして社会、さらには主権を持つ国民としての在り方を基本に据え、自分に関わる事柄から課題を見いだし，人間としての在り方生き方についてみずから考え、判断し、それをどう表現するかを、話し合いや討論で育成し、その課程を評価する。	古代ギリシャ哲学、キリスト教、古代中国思想、仏教、イスラーム教などの宗教や、近代以降の思想が現代に生きる思想であることを踏まえ、現代社会の諸課題とどう繋がるかを原典資料にあたりながら、現代社会が学ぶものは何か？等々、考える力を養う。資料をじっくり読み込み、それを読解する力の育成をめざし、評価する。	現代社会の基本的問題と今を生きる人間としての在り方生き方とに関わる基本的な事柄や，学び方を理解し，そのための必須知識を身に付けることを目的とする。 大学入試二次試験に対応できるように、資料読解と問題点の理解と把握、また自分の意見を持ち、小論文を書く力の育成を育む。
評価方法	授業での観察 質疑応答において自ら考え主張できているかを評価。	定期考査 グループ討論による自分の意見のまとめを評価。	定期考査 小論文等	定期考査 復習テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	青年の心理	・青年期の課題 ・人間とは何か？ ・自分とは何か？	○ ○ 	 ○	○ 	 ○	a:私とは何かを自分を題材に考えなおす。特に私と他者との相違と関係性を考える。また性格・パーソナリティについて学び、考察する。 b：人間とは何か、という永遠の課題を、猿人・原人に遡って考察し、人間の特性を生徒諸君とともに考える。 c:つづいて「自分」について、先哲たちが行った「定義」をもとに考える。同時に青年期にいる自分の心理について、各自が主体的に考える。 d:青年期の心理について、基礎的な用語を正確に理解し、それをもとに自分を題材に自分の心理を考える。 以上について、活発な意見交換も評価基準にする。	個別質疑 対話 討論
	人間としての自覚(西洋源流思想)	・古代ギリシャ思想 ・キリスト教 ・イスラームの思想	○ 	 ○ 	○ ○ ○	○ ○	a:「知恵を愛す」とは？について、古代ギリシャの哲学者たちの思想を概観する。 b:世界を席巻している一神教の代表的な宗教、キリスト教をユダヤ教との比較を通じて学び、考える。 c ： イスラーム教が広い地域で支持されている世界宗教であることを生徒諸君とともに考えたい。 d:源流思想の正確な理解は、グローバリズム社会を生きる上での必須であることを踏まえ、各々の源流思想の基礎知識を正確に理解する。 以上について、諸君が現代的視野に立った視点で考えているかも評価基準にする。	定期考査 対話 討論

前期	人間としての自覚(古代東洋源流)	・仏教 ・古代中国思想	 ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:日本人の生き方にも多大の影響を今も与えている仏教の教えをバラモン教など古代インド思想に遡って学ぶ。 b: 必要な原典を通読する。 c:日本人の思考に大きな影響を与えた儒家・道家の思想を学び、現代日本の人びとの思考との関わりを考察する。 d:日本思想に大きな影響を与えた東洋思想の原典にあたり各用語を正確に理解する。 以上、源流思想を基本的用語を含めてしっかり理解しているかを評価基準とする。	定期考査 対話 討論
後期	現代を生きる人間の倫理(近代の思想)	・ルネサンス ・経験論と合理論 ・自由と平等 →社会契約説 →カント・ヘーゲル 功利主義	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○	a:近代西欧世界の躍進の原動力となったルネサンス期の思考の転換を考察する。 b:科学革命を支えた経験論と合理論を考察する。 C:ベーコンとデカルトの後継思想の現代的意義を学ぶ d: 西欧市民社会を実現した基本思想を学び、考察し、ドイツ観念論とイギリス功利主義の基礎知識を理解する。 以上,二項対立的な考えを、諸君がどのように理解しているかを評価基準にする。	定期考査 対話
後期	国際社会に生きる日本人の自覚(日本の思想))	・古代日本人の精神 ・仏教伝来と展開 ・日本的仏教の誕生 ・日本儒学 ・江戸時代民衆の思想 ・幕末・明治の思想 ・現代日本につながる思想	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○	 ○	 ○ ○ ○ ○	a:日本人の風土と伝統、そして古代日本の倫理観を学ぶ。 b:6世紀以降の日本人の心を大きく捉えた仏教等を学ぶ。 c:思想を社会的影響を含めて理解する。 d:日本思想が重層性を持っていることを理解する。 以上のことを、生徒諸君が巨視的視点から理解しているかを、記述問題等で測り、それを評価の基準とする。	定期考査 対話

後期	現代に生きる人間の倫理（近現代の思想）	・人間の主体性を考える →社会主義 →実存主義 →プラグマティズム ・人間精神の深層を考える →精神分析 →理性批判 →言語学と構造主義 →公正と正義	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:現代社会、特に 20 世紀の世界を概観し、社会の在り方を大きく変えた社会主義や現代人に生き方を再考させた実存主義・構造主義について学び、考察する。 d:人間の心とは何かについて基礎的な心理学・精神分析学などを紹介する。また今に続く問題を提起した諸思想を概観する。 以上を、現代と関連して理解しているかを評価基準とする。	課外講習として行う。 考査は行わず、小テスト等で評価
後期	現代の課題を考える	・生命倫理 ・環境倫理 ・家族と地域社会 →少子化高齢化問題 →男女共同参画社会 ・情報社会 ・宗教と異文化理解 ・	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ 	○ ○	a:社会を取り巻く諸問題を、21 世紀を生きる生徒諸君とともに考える。 b:生命倫理・環境倫理を初め、いずれも喫緊の課題であり身近な問題であるので、生徒諸君の意見を求めたい。 c: 必要な諸資料を選択して，活用する。 d:国際平和，地域・民族問題，国際社会における諸問題を概観し，各自意見を述べあい、合意点を見つけるべく考察する。 以上を、生徒諸君が現代社会を構成する一員として、どう捉えているかを評価の基準とする。	課外講習として行う。 考査は行わず、小テスト等で評価

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。